

ベネズエラの最新動向(7月~8月)

本レポートは、国際協力銀行ニューヨーク駐在員事務所が、ベネズエラの政治・経済・外交・資源セクター等の最新動向に着目して、現地報道などの公開情報を中心に情報収集し、取り纏めたものです。

I. 政治・経済

1. ベネズエラ最高裁判所、赤十字のベネズエラ支部を解体

- マドゥーロ政権の影響下にあるベネズエラ最高裁判所は8月4日、赤十字のベネズエラ支部の「広範かつ多様な再編成(解体)」を命じ、40年間在任した Villaroel 会長と理事会メンバーを解任。また、ベネズエラ検察当局は、「(従業員等に対する)嫌がらせと不当な扱い」の疑いで Villaroel 氏への捜査も開始。
- 与党 PSUV のカベージョ副党首は、「権力の乱用」と「ポリバル革命(マドゥーロ政権)に対する陰謀(政権転覆)を企てた」として Villaroel 氏を非難し、国際的な NGO への強硬姿勢を強めている。赤十字本部は、「他の NGO の権利が危険にさらされる前例になる」として、最高裁判所の判断に懸念を示し、Villaroel 氏への「無制限の支持」を表明。
- 最高裁判所はさらに、少なくとも今後1年間に亘り、赤十字ベネズエラ支部を監督する理事会(特別再建委員会)を設置し、理事長にはベネズエラ経済連盟(Fedecamaras)の前会長である Cusanno 氏を指名。Cusanno 氏には人道支援の経験はなく、マドゥーロ政権に近い人物とされる。
- アナリストは、今回のマドゥーロ政権による動きは、NGO による人権活動や資金調達を制限することが目的であり、マドゥーロ政権による更なる干渉への懸念が高まっていると指摘。また、強硬姿勢を強めるマドゥーロ政権への批判は高まっているものの、マドゥーロ大統領は来年に選挙を控える中で、国内外からの批判をはねのけると自信を深めていると指摘。

II. 外交

1. バイデン政権とマドゥーロ政権、制裁緩和に向けて協議中と報道

- メディア(ロイター通信)は8月23日、関係筋の話として、バイデン政権とマドゥーロ政権の高官等が、2024年にベネズエラで自由かつ公正な選挙が実施されることと引き換えに、米国の対ベネズエラ石油制裁を緩和する方向で協議していると報道。マドゥーロ政権高官の中にはホルヘ・ロドリゲス国民議会議長も含まれているとされる。
- ホワイトハウスの国家安全保障会議の報道官は、「ベネズエラが民主主義の回復に向けて具体的な行動をとり、自由かつ公正な選挙が行われるのであれば、米国はそれに応じた制裁の緩和を行う用意がある」とコメント。但し、「これまでのところ、ベネズエラの民主主義の回復に進展は見られていないことから、現時点对ベネズエラ制裁の有効性に変更はない」と強調。また、仮に制裁が緩和されても、中国、ロシア、イランへの石油輸出は引き続き制限されることを強調した。

- 米国はこれまでも、特定の機会に的を絞った期限付きの制裁緩和を行っており、2022年11月には、米国政府は米石油大手シェブロンに対して、ベネズエラでの合弁事業(J/V)の再開を許可(ライセンスを発行)、その利益の一部がシェブロンに対する債務返済にも充てられており、イタリアの ENI やスペインの Repsol 等も同様のライセンスの発行を申請中とされる。
- アナリストは、マドゥーロ政権による①ベネズエラ選挙管理委員会(CNE)解散(メンバー交代)、②野党勢力の有力大統領候補2人(マチャド氏とカプリレス氏)の出馬禁止、③EU 選挙監視団の参加拒否等の措置により、公平な大統領選挙を実施することは困難との見方が強まる中、米国はマドゥーロ政権に制裁緩和を提案することで、マドゥーロ政権から政治的譲歩の取り付けを図っていると指摘。しかし、マドゥーロ政権から譲歩(公平な選挙の実施)を取り付けるには、米国は全面的な制裁解除を行う必要があり、双方が合意することは難しいとの見方が強い。

III. 石油その他の資源セクター

1. 2023年7月の石油輸出量が急増(ロイター通信)

- ロイター通信は8月2日、PDVSA 社内文書や石油タンカーの追跡データ(Tanker Tracker)を基にした2023年7月のベネズエラの石油輸出量を発表。2023年7月の石油輸出量は前月比22%増87.7万バレル/日となり、約3年半ぶりの高水準まで急増。
- 新たな供給契約に締結したことや米石油大手シェブロンによる輸出が増加したことが背景とされ、2023年7月のシェブロンの米国向け原油輸出は約16万バレル/日と、前月(2023年6月)の13.4万バレルから増加。
- 米財務省が2023年11月に、シェブロンにベネズエラでの事業再開を認可して以来、ベネズエラの石油生産と輸出は安定し、石油輸出量は米国が制裁を強化した2020年以前の水準まで回復。
- テレチェア石油大臣(兼 PDVSA 総裁)は先月(2023年7月)、ベネズエラの石油生産について、「2023年後半には100万バレル/日、2024年には176万バレル/日に達する可能性がある」と述べ、今後も石油ガス・セクターの成長促進を続ける方針を強調。

2. 2023年7月の産油量、前月から小幅増加＝原油価格は大幅上昇(OPEC石油月報)

- OPEC が8月10日に公表した石油月報では、2023年7月のベネズエラの産油量は前月(2023年6月)の73.4万バレル/日から77.2万バレル/日に増加。同統計は、OPEC が二次情報源(Secondary Sources)から集めた情報を元に算出したもの。
- ベネズエラ政府が自己申告した統計(Direct Communication)における2023年7月の産油量は前月(2023年6月)の79.6万バレル/日から81.0万バレル/日に増加。
- 2023年7月のベネズエラ原油価格(Meruy、スポット価格、月平均)は、前月比10.3%高の63.28ドル/バレルと大幅上昇、OPEC 加盟国平均(前月比7.8%高)のトレンドを上回る値動きで推移。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。